

令和4年度 第1回八王子市食育推進会議	
日時	令和4年9月1日(木) 14時30分～16時00分
場所	八王子市保健所 4階401会議室
出席者氏名	委員 今富 敦子、大村 香織、瀧村 博昭、能渡 規子、田所 房子、土門 陽子、 内藤 里美、小林 陽一郎、松本 勉、峯尾 誠、山本 徹
	事務局 渡邊保健所担当部長、渡邊保健総務課長、松浦主査、久間主任、山尾、 貝吹
欠席者氏名	樋川 寧子、米津 元一、浜本 千恵、浦野 慎一
議事	(1) 第3期八王子市食育推進計画の令和3年度評価について (2) 八王子市における今後の食育推進の方向性について
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 (差し替え)八王子市食育推進会議委員名簿 ・資料2 八王子市食育推進会議開催要綱 ・資料3 第3期八王子市食育推進計画について <ul style="list-style-type: none"> (3-1)第3期八王子市食育推進計画取組評価 (3-2)令和3年度取組評価(抜粋) ・資料4 八王子市における今後の食育推進の方向性について ・参考資料 自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会報告書(令和3年度第1回食育推進評価専門委員会資料より抜粋)
1. 開会挨拶	
発言者	内容
事務局	<p>定刻になりましたので、令和4年度第1回八王子市食育推進会議を開催いたします。よろしくお願いいたします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本推進会議は設置要綱にもございますように、八王子市における食育に関する取り組みを総合的な見地から協議、意見交換を行う場としております。会議は原則、公開となっております。また、会議録作成のため録音させていただきますので、ご了解ください。</p> <p>本日の傍聴人の方はいらっしゃいませんので、このまま進めさせていただきます。</p> <p>それでは、開催に先立ち、保健所担当部長よりご挨拶をさせていただきます。</p>

<p>保健所担当部長</p>	<p>保健所担当部長(八王子市保健所長)の渡邊でございます。</p> <p>本日は、9月1日の秋のはずなのですが、皆様、お暑い中お越しいただき誠にありがとうございます。めでたく新しい保健所に移転になり、今までとは雲泥の差の環境になりました。お越しいただくのに迷われた方もいらっしゃるのではないかと少し心配しております。</p> <p>八王子市食育推進会議は、本市で作成している食育推進計画等の進捗状況を皆様と一緒に確認していきながら、その中で皆様が日々活動している中での疑問点、もしくは、ご提案、ご意見を賜りながら進行していきたいと考えております。</p> <p>令和3年度から7年度の間食育推進計画につきましては、3期目に入っております。より多くの市民の方や活動団体、民間事業者等と一緒に食育を実践できるよう進めていきたいと考えております。</p> <p>無謀かもしれませんが、若い世代や無関心層にもアプローチをしたいと思っています。ポピュレーションアプローチの中でも、住んでいるだけで自然に健康になれる、そして食に興味を持ってもらう、食を実践できる、そういうところを目指した環境整備に取り組んでいきたいと考えております。大きな流れとしてはそのような形で進めていこうと思っているところですが、無関心層にどのようにアプローチしたらよいのかということについては、すぐに答えが出るものではありません。そのためにも皆様のご意見を賜りながら、皆様と一緒に食育事業を進めて行くことができればと切に願っている次第です。お時間は限られていますが、意見交換に重きを置いている会議ですので、忌憚のないご意見を賜ることができればと思っております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、ここから、会議の進行を保健所担当部長の渡邊所長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>保健所担当部長</p>	<p>それでは、これより私の方で会議を進めさせていただきたいと思っております。まず、事務局より配付資料の確認をいたします。事務局、よろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、事前にお送りした資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日、資料をお忘れの方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>事前配付資料として郵送させていただいた資料として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 八王子市食育推進会議委員名簿 ・資料2 八王子市食育推進会議開催要綱 ・資料3 第3期八王子市食育推進計画について <ul style="list-style-type: none"> (3-1)第3期八王子市食育推進計画評価一覧(令和3年度評価) (3-2)令和3年度取組評価(抜粋)

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料4 八王子市における今後の食育推進の方向性について ・参考資料 自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会報告書(令和3年度第1回食育推進評価専門委員会資料より抜粋) <p>次に、本日の配付資料として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 (差し替え)八王子市食育推進会議委員名簿 <p>以上、不足等ございませんでしょうか。何かありましたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。</p>
保健所担当部長	<p>次第に従って進めたいと思いますが、議事に入る前に、本日が今年度1回目の会議となります。また、何人かの方は初めてのご出席でいらっしゃると思いますので、時間が限られておりますが、委員の皆様による自己紹介をお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>【自己紹介】</p>
保健所担当部長	<p>委員の皆様、ありがとうございます。事務局からも名前だけ紹介させていただきます。</p>
事務局	<p>【自己紹介】</p>
保健所担当部長	<p>8月に組織改正があり、部や課の名称が少し変更されておりますが、この事務局のメンバーで進めて参ります。</p> <p>本日の欠席者は「市民委員の樋川さん」、「八王子市農業委員会の米津さん」、「八王子管理栄養士の会ダイエタリー・フレンズの浜本さん」、「八王子市私立幼稚園協会の浦野さん」の4名です。</p>
2. 議事	
発言者	内容
(1)第3期八王子市食育推進計画の令和3年度評価について	
保健所担当部長	<p>それでは、議事に入ります。議事1、「第3期八王子市食育推進計画の令和3年度評価」について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>まず、「第3期八王子市食育推進計画の令和3年度評価」について説明させていただきます。</p> <p>それでは資料3及び資料3-1、3-2をご準備ください。</p> <p>お時間の都合もありますので、資料3については行政側が取組内容についてまとめ、評価をしている一覧になります。</p>

事務局	<p>資料3-1の評価一覧については、104の取り組みがあるなかでA、B、C評価をまとめたものになりますので、そちらをご覧ください。</p> <p>全取組104項目ある中でA評価が89、B評価が15、C評価が0となっています。</p> <p>お時間の都合がありますので、B評価を中心にご説明させていただきます。B評価を抜粋したものが資料3-2になります。</p> <p>例年に比較しB評価が多くなっています。コロナの影響で令和2年度からB評価、C評価が増えてきています。しかし、令和3年度については令和2年度よりC評価は減少しており、令和2年度ではC評価は14ありましたが、0となっています。行政側も努力してきているところです。</p> <p>資料3-2に沿って順番に説明させていただきます。</p> <p>取組番号25、26の部分の児童館と食育連携事業の実施について、学校教育部の給食を作っている所管が児童館を運営している所管と連携して料理教室を実施していますが、コロナの影響でできなかったとのことです。コロナが蔓延して3年目となり、オンラインが一定程度は普及しているが、食育においては共食など料理を一緒に行い、食べることに意味があると思います。食育の特殊性が今回如実に出ていると思っております。</p> <p>オンラインを一部実施しているところもあるが、やはり無関心層や子どもなど楽しんでやろうというときに対面を重視するとオンラインはそぐわず、対面での実施がコロナの影響でなかなかできなかったため、このような評価となっています。</p> <p>続いて、取組番号28の親子料理教室の実施について、3校実施となっています。50校の全学校が取り組むことを目標にしていたが、コロナの影響でできなかったとのことです。</p> <p>例年夏休みに料理教室を実施しているが、令和4年度はコロナの第7波の渦中であつたので、コロナの状況を鑑みながら冬休みに実施ができないかと検討していると聞いております。</p> <p>続いて、取組番号33の学生に対する食育事業の周知・啓発について、大学と市側が連携している事業総数は148件であり、目標値の316件には及んでいないが、昨年度と比較すると12件増加しています。全体の連携事業数148件の中で食育にかかる取組項目数が2件になります。大村先生も大学で苦勞されて大学内で運営していたと思われませんが、コロナ禍で対面での授業がない中で、連携することも難しかったと考えております。</p> <p>続いて、取組番号47の特定健康診査、特定保健指導の実施についてですが、例年受診率と実施率が上がってきています。6月末の暫定値で受診率は42.15%、特定保健指導は26.5%となっています。国が示している規準になかなか満たせないということでB評価となっているのですが、同規模自治体や近隣と比較すると健診受診率は高いとは聞いています。しかし、なかなか目標値までは届かないということで、本市では、ナッジ理論を含めて</p>
-----	---

事務局	<p>受診勧奨をしながらこれからも努力を続けていこうとしているところです。</p> <p>続いて、取組番号53の保健センターでの各種栄養教室の実施についてですが、こちらも料理教室であるため、コロナの影響でなかなか実施ができなかったことや実施した時も、対象年代の中高年の方が来て下さらなかったこともあり、B評価となっています。</p> <p>続いて、取組番号 62 の施設等に対する食育研修の実施については、障害者の方に食育の推進を行うことで準備は進めていたが、コロナの影響で障害者施設もクラスターなど集団感染が広がり、実施が難しかったとのことです。コロナの感染状況が落ち着いたら実施したいと所管課から聞いています。</p> <p>続いて、取組番号 67 の災害用食料備蓄の推進ですが、例年、いちよう祭り等を通じて地域の栄養士会と連携して防災の食料のあり方などを普及啓発していたが、いちよう祭り自体の開催がないことや規模縮小で実施するなどの状況でした。今年度は11月19日、20日に開催予定ですので、出展に向け準備を進めていく予定です。災害に焦点を当て、栄養士会の方と連携して進めていけたらと思っております。</p> <p>続いて、取組番号 68 の感染症の拡大や災害等有事の際の食育のすすめ方やありかた検討について、昨年度、一昨年度ともに全く実績が作れませんでした。今年度は市内の栄養士と栄養士連絡会の中で災害部会を立ち上げました。東京都の栄養士会と災害時の連携協定を結べないか話し合いを進めていながら、行政栄養士の役割を明確にしていこうと舵を切り出している状況です。</p> <p>続いて、取組番号 76 の地場農産物のPRについて、農林課とJA 八王子が連携している事業です。農業祭がコロナの影響でできなかったということから B 評価となっています。今年度は植木市等を含めて、タイミングを図って開催するように準備を進めていると聞いています。</p> <p>続いて、取組番号80の「地産地消推進意見交換会」による食育推進ですが、こちらもコロナの感染拡大防止のために未実施ということでした。</p> <p>続いて、取組番号 84 の食の循環モデル事業の実施について、10月の食品ロス削減月間における啓発活動を行っていますが、イベント自体が中止となってしまったということから B 評価となっています。</p> <p>続いて、取組番号86 の食の循環モデル事業の実施について、小学校の1校で生ごみ処理機を導入し、食の循環モデルを示していたのですが、生ごみ処理機が壊れてしまい、古い機械のため修理部品が取り寄せられなくなっているということで、この取組みが終了となり、B 評価になっています。代替案として、八王子バイオマスエコセンターのリサイクルたい肥の周知啓発をしながら、子どもに食の循環モデルを示していけたらと聞いています。来年度以降、評価指標を含めて、見直しをして変更できたらと思っております。</p>
-----	--

<p>事務局</p>	<p>続いて、取組番号 87 のダンボールコンポストの普及について、こちらも令和元年度、令和2年度は小学校3校で実施ができていたのですが、コロナの影響により令和3年度では1校しか実施ができなかったと聞いています。コロナの感染状況が落ち着いたら、ダンボールコンポストを活用する小学校を増やして子どもに食の循環モデルを楽しみながら学んでもらえたらと思っています。</p> <p>続いて、取組番号96の市民健康の日「健康フェスタ・食育フェスタ」での情報提供ということで、こちらもコロナの影響で令和2年度と令和3年度は開催できなかったのですが、今年度は5月の第3日曜日を市民健康の日とし、規模縮小で飲食等はせずに開催しました。無事に多くの方に来場していただき、皆さんに楽しみながら食育について学んでいただけたと思っています。</p> <p>最後に取組番号100の給食センターを活用した地域・家庭における食育活動の推進について、中学校給食が今までお弁当でしたが、センター給食方式になり、全中学生に温かいおいしい給食を提供できるようになっています。徐々に給食センターが増えております。給食センターの中に食育スペースを設置しており、多くの市民の方に使用してもらい、食育推進の拠点になれば良いなと思っています。食育スペースはできたがコロナの影響でなかなか活用できるまでに至っていませんでしたが、今年度から元横山、南大沢、元八王子の給食センターの食育スペースの活用を具体的に進めていると聞いています。</p> <p>ここまでB評価のみご報告させていただきました。</p> <p>コロナの感染拡大から3年目になり、コロナとの向き合い方も少しずつ変わってきているため、コロナを言い訳にするのではなく、代替案を提示できたらと思っています。ぜひ、皆様からご意見をいただけたらと思います。</p>
<p>保健所担当部長</p>	<p>事務局の説明が終わりました。本当に、代替案を探すのが難しいという悩みを抱えています。個々の事業について、御質問、御意見等ございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>学校の現状をお話しするとコロナの影響で食育の取り組みを行うのはなかなか難しいだろうなと思われま。学校教育において感染対策をすることでのリスクといえば、熱中症があり、屋外ではマスクをはずして運動してもらっています。</p> <p>感染リスクが最も高いのが食事であり、楽しいはずの食事が未だに黙食です。黙って食べるのは辛いものです。調理実習では皆で作るところまでやって食べないようにしたり、自宅で録画した調理の仕方を端末で皆に見せて、自宅で試すように伝えています。</p>

<p>委員</p>	<p>我々は、ずっと昔から、一人で食べずに皆で楽しい食事をするよう言われてきました。しかし、今はそんなこともなく黙っているという食事の仕方をしてはなりません。</p> <p>そこで、今、力を入れているのが農業体験です。皮むき体験や、近くにある水田を借りたり、農作物を作ったりしています。学校農園の中で小さい大根が大きい大根になり、それを持って帰ったり、田植えをして草とりをするなどの体験はさせています。</p> <p>今まではお米ができたなら農家さんと一緒に食べていましたが、今はそれできません。今は、食に関することや食べることにしては作るのみとし、食への関心を強化する取り組みを行っています。もちろんコロナが収まれば今までの取り組みを再開しますが、小学校の現状を情報提供としてお知らせします。</p>
<p>保健所担当部長</p>	<p>ありがとうございます。とても切実な現場の声を聞くことができました。</p>
<p>委員</p>	<p>学校給食が大変であるということがよくわかりました。コロナ禍の中、子供達は対策を続けています。前回の食育推進計画の評価もコロナの影響を受けてC評価が多かったと思います。</p> <p>取組番号76と80の農産物のPRについては、八王子市特産のパッションフルーツを給食で初めて取り入れました。その際、子供達が食べたことがないものを提供するのではアレルギーのリスクがあるのでいかなものかといった意見が出ました。そこで、当時の栄養士と相談してジャムにしましたが、それでも皮膚テストでアレルギー反応が出てしまいました。そのため、翌年はその子供たちはジャムを食べないようにしていたので、おそらく解決できたのかと思います。なかなか地産地消と食育は両立しにくいので、まだ検討の余地があると思います。</p>
<p>保健所担当部長</p>	<p>食の安心・安全をどうやって確保するかも重要であることがわかりました。貴重なご意見ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>学校給食の栄養士会でも地産地消を推進していて、学校で大根を作り、それを給食に入れる取り組みをしています。2年生が作ってくれた大根を給食に取り入れ、興味が湧くように工夫をしています。</p>
<p>委員</p>	<p>私の子どもが今年、小学校に入学したのですが、学校で周知してくれるチラシに色々な食の情報が書いてあって、栄養士さんは本当によくやっているなどの印象があります。息子も学校の給食は全部食べてくるとは聞いていたけれど、給食だよりなどを読んでみても食育に力を入れて取り組んでくれている様子がわかり、とても感謝しています。</p>

保健所担当部長	<p>各学校の栄養士や先生方がおたよりをかなり工夫して作っているようで、それが保護者の皆さんに届いているということがわかりました。とても良いことだと思います。</p>
委員	<p>取組番号68のパンデミックや災害時等有事の際の食育の進め方やあり方検討についてイメージがよくわからなかったのですが、パンデミックや災害時等の連携体制構築というのが目標なのでしょうか。</p>
事務局	<p>災害が起きた時に避難所にアレルギー特別食や刻み食を提供する必要があるが、現在、外部団体と連携して市側の運営をどのようにし、物資を届けたり、炊き出しをするのかなど、そういった仕組みが構築できていません。特に食育や栄養に特化したものはまだ考えられていない課題もあり、配慮が必要な方をどう発見して、必要な食料をどう送り届けるのかなどの仕組みをつくるために、まず、市側と外部団体との連携体制を構築していくということが目標です。</p>
委員	<p>南多摩地域リハビリテーション支援センターで活動していますが、災害時のリハビリにおいて、生活の不活発が災害時に起きてしまうので、栄養が崩れたり、食べられない状況になってしまいます。ぜひ連携体制の中に入れていただきたいです。</p>
事務局	<p>現在、東京都栄養士会と協定に向けて進めさせていただいている最中です。検討させていただきます。</p>
保健所担当部長	<p>具体的に現場で活躍されている皆さんと連携し、ご意見やご提案をいただけたらと思います。市の栄養士が災害時にどのように動いたら良いのかなど、関連団体との連携も進めて行こうと思っています。</p>
委員	<p>私も子ども3人おまして、上が特別支援学級、小学6年生、小学3年生です。コロナ禍で学校は大変だなと思いながら伺っていたのですが、大学でも、寮で集団生活をしている学生は、一人が感染すると感染が広がってしまうので黙食を徹底しているところ。子どもから学校の校庭で育てている豆やナスが給食に出たと話を聞いたりします。黙食になってもそれ以外のところで食に興味を持つ機会は持てるということ、食に興味を持ってもらう環境づくりは我々にもできると思いました。</p> <p>スポーツ医科学センターではイベントや食育ポスターなどの情報提供は選手たちも良く見えています。大学生くらいになると目に留まるところに貼ってあれば見る学生もいるのではないかと思います。</p> <p>コロナ禍で働く人からするとオンラインが普及して離れた人とコミュニケ</p>

<p>委員</p>	<p>ーションが取れるというメリットもあります。コロナの影響で調理実習がしにくくなったという状況からできなくなったからどうしようかなといったように代わりになるものを考えていくことも大切かと思えます。青山学院大学の原監督はオンラインで自分のランチを公開するというグループワークを実施したとどこかで聞いたことがあります。面と向かって食べなくても画面上であれば、会話をしながら一緒に食事をすることができます。コロナ禍ですが、色々なやり方を模索していきながら新しい形の食育や食の情報発信ができるのではないかと思います。具体的な提案はできませんが、ディスカッションをしていくと新たな取り組みが生まれてきそうな気がします。</p>
<p>委員</p>	<p>保育園での食育について、保育園は作っているところの現場に入れないため、携帯の zoom で作っている最中の様子を動画で撮って、子どもたちに見てもらうように工夫しています。食材を鍋に入れる様子や食材を切っている様子を撮影し、見せることで調理員さんが実際に作ってもらったものをこれから食べるんだということを子どもでも理解してもらえます。オンラインでも工夫すれば食育はできるということを実感しました。</p> <p>その他にさつまいも畑を借りて、苗から育てるということをやっています。昔は落ち葉で焼き芋を作っていましたが、3.11の東日本大震災から落ち葉は放射能で使ってはいけないということになったため、石焼き芋にし今も続いています。木の燃える匂いがすることで美味しそうな匂いがすると3歳児が言っていました。遊んでいるときに焼いて、一口、口に入れた時の美味しさを実体験させてあげたいなと思っています。今はなかなか制限されているのが実情なのかもしれませんが、食の体験をさせてあげられたらと思います。</p>
<p>保健所担当部長</p>	<p>コロナ禍ではあるが、食の体験をどうしたらやっていけるのか現場で工夫して考えてくださっている様子がわかりました。きっと子どもたちにも響いていると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>取組番号100の給食センターを活用した地域・家庭における食育活動の推進について、給食センターの食育スペースを活用するとあるが、自分の学校だと第4ブロックの南大沢の給食センターになり、学校からは離れていて、活用するのが難しい学校が多いのではないかと。</p>
<p>事務局</p>	<p>給食センターの食育スペースの活用の想定としては、学校に貸し出すというよりは地域で活動されている栄養士会やサークル、サロンなどに使用してもらい、料理等をするイメージで考えています。学校は調理室があるので、そこを利用してもらえたらと思っています。我々も栄養士会との関わりがあり、給食センターを紹介したが、立地がよくないため、使われなかった実</p>

<p>委員</p> <p>保健所担当部長</p>	<p>績があります。担当所管と共有いたします。</p> <p>中学校の夏休み前に給食の状況を見に行ったのですが、給食センターから給食が運ばれてきてからの喫食時間が短いので、10分くらいで駆け込んで食べなければいけないという現状でした。早い人順で食べ始めています。クラスによっては全員揃って「いただきます」の挨拶をしてから食べ始めていますが、これで食育を推進していくことはできるのかと疑問に思っています。</p> <p>現場の声として非常に切実であり、所管にもご意見として伝えていきたいと思えます。</p> <p>事務局の説明が終わりました。御質問、御意見、ございますでしょうか。</p>
--------------------------	---

(2)八王子市における今後の食育推進の方向性について

発言者	内容
保健所担当部長	<p>それでは、議事2に進めさせていただきます。議事2「八王子市における今後の食育推進の方向性について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料4に基づき「八王子市における今後の食育推進の方向性について」説明させていただきます。</p> <p>国の動向として、まず健康日本21(第2次)では基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防、等について掲げられています。</p> <p>また、令和元年には健康寿命延伸プランで「自然に健康になれる環境づくり」と「行動変容を促す仕掛け(ナッジ)」を取入れることが推奨されました。</p> <p>昨年度には、自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会の報告書を国がまとめました。</p> <p>食環境づくりの方向性として、1つ目は、全世代や生涯の長きにわたり関係し得る重要な栄養課題として「食塩の過剰摂取」を優先的に取り組みつつ「若年女性のやせ」や「経済格差に伴う栄養格差」にも取り組むこととしています。あわせて、「栄養・食生活」と「環境」の相互作用性を踏まえ、事業者が行う環境保全に資する取組にも焦点を当てています。</p> <p>2つ目は、健康関心度等の程度にかかわらず、誰もが自然に健康になれるよう、事業者による栄養面・環境面に配慮した食品(商品)の開発、販促、広報活動等を、産学官等が連携して手と手を取り合って推進することとしています。</p> <p>次に、2番として、都民の野菜と塩分摂取量をお示ししています。1日の野菜摂取量は、男性303.7g、女性296.7gと、男女ともに約50g足りていない結果となっています。また、塩分摂取量は、男女ともに目標よりも多い摂取量となっています。これは、日本においても塩分摂取量は徐々に減っては</p>

事務局	<p>来ていますが、WHOの基準がどんどん下がっているので差が埋まらないことが原因の一つとして考えられます。</p> <p>続いて、今度は医療費の面からみていきますと、KDB(国保データベース)では、本市の生活習慣病に係る国保医療費は、男女ともに国や都、同規模自治体と比較して低いという結果が出ています。この国保データベースは、各自治体が持っているものです。</p> <p>続いて、後期高齢者医療についてです。こちらにも生活習慣病に係る医療費は、KDBと同様に、男女ともに国や都、同規模自治体と比較して低いという結果が出ています。KDBと後期高齢者医療の結果であるため、全市民を対象としている結果ではありません。また、何故この結果になっているのか検証を進めているところです。</p> <p>次に食環境整備事業について説明します。</p> <p>1 つめにはちおうじ健康応援店事業のご紹介になります。健康応援店事業については、毎年、この食育推進会議の場でも説明させていただいておりますが、こちらの8つの取組項目のうち1つでもあてはまれば登録となります。登録店舗数も順調に増加しており、令和3年度末で129店舗と右肩上がりになっています。取組項目数がはじめは1つで、気軽に始めた店舗がこれならできるこれなら簡単だということで増えています。業種によって取組項目数は6つ以上の登録が難しい場合もありますが、なるべく1店舗あたりの取組項目数も増やしていきたいと思っています。</p> <p>2 つめとして、スーパーアルプスとの弁当開発・販売についてですが、令和3年4月から販売をしています。このお弁当が「お弁当・お惣菜大賞2022」のお弁当部門で入選しました。今月末から来月初旬に第2弾のお弁当が販売予定ですので、店頭に並んだ際はぜひお買い求めいただけたらと思います。</p> <p>3 つめに市民食育イベントについて、令和3年度に引き続き、イーアス高尾のショッピングモールにて開催しました。地域活動栄養士会、管理栄養士の会ダイエタリー・フレンズとともに出展したほか、庁内栄養士所属所管も出展し、規模を拡大しました。無関心層に楽しみながら食育の情報を持ち帰っていただけたかと思えます。骨密度測定会も同会場にて開催したため、高齢の方の参加もあり、骨密度測定を目的に来たけれども食育のことも勉強して帰っている様子が見られました。</p> <p>4 つめに、はちおうじ健康応援店、スーパーアルプス、東京八王子ビートレインズ、味の素株式会社との協働事業を令和3年9月から実施しています。はちおうじ健康応援店のプロの料理人が、味の素株式会社の商品を使用して野菜がたくさん摂取できるレシピを考案して、スーパーアルプスで紹介することで、家庭での野菜摂取量向上を目指す取組みを行いました。また、東京八王子ビートレインズの選手が料理を食べ、その様子をYouTubeで配信しています。</p>
-----	---

事務局	<p>5 つめに料理レシピサービス「クックパッド」に八王子市公式アカウント「はちおうじ元気ごはん」を作成しました。学校給食や保育園給食を作っている所管の市のホームページにレシピを公開しているが閲覧する方が少ない状況でした。同じレシピをクックパッドに公開し、配信媒体を変えただけで、4月のアクセス数はクックパッドで13145件、市のホームページは85件という結果になっています。市のホームページの改善も必要かと思いますが、継続してクックパッドの活用をしていきたいと思っています。</p> <p>最後に今後の食環境整備事業について説明します。</p> <p>この図は食環境整備事業のイメージ図になります。市民に対し、様々な企業や団体がアプローチをしています。市からのメッセージを投げて響く人、響かない人がいます。また、大学やスポーツチームから投げて響く人もいます。主語が誰かによって同じことを伝えたとしても受け取り方が変わってくると思います。これからも色々な角度から情報を発信していくよう取り組んでまいります。</p> <p>今後の食環境整備事業について、具体的に大学との連携について説明します。</p> <p>創価大学との連携では、看護学部の今松先生と連携し、学生を対象に若い頃から食習慣、生活習慣に関心を持ってもらえるきっかけづくりを行うことを目的としました。今年度は「女性のやせ」をテーマにした、介入研究を実施する中で、栄養教育の講師を担当しました。</p> <p>帝京大学との連携については、大村先生のお力もお借りしながら、食や健康に関するテーマ展示、学食にて野菜たっぷりメニューの提供、健康チェック・体験イベントを4日間実施する予定です。ベジチェックや体組成測定、血管年齢測定など楽しみながら自分の体を知ってもらい、フィードバックをすることで生活習慣、食習慣を変えていけたらと思っています。</p> <p>東京家政学院大学との連携も進めています。東京家政学院大学は大学コンソーシアムの中で唯一栄養士が養成できる学校です。現在検討している取り組みとして、アルプス連携して健康に配慮した弁当開発や惣菜売り場においてポップを設置するなど検討しています。</p> <p>その他、料理レシピサービス「クックパッド」の「はちおうじ元気ごはん」を用いて、若い世代や健康無関心層にも興味を持てるようなレシピを学生と協働で開発し、公開するなども考えています。</p> <p>さらに、学生食堂の健康応援店への登録も検討しています。学生食堂に健康応援店に登録してもらい、学食を通じて大学生の食生活を意識的、無意識的にアプローチをしていく予定です。</p> <p>また、減塩について民間企業と地域栄養士会、スポーツチームとの連携を行い、取り組んでいくことで進めています。「減塩」をキーワードに地域栄養士会の栄養士が味の素株式会社の商品を使ったレシピを考案し、冊子にしてスーパーアルプスで配布を考えています。味の素株式会社や市のHP、</p>
-----	---

事務局	<p>SNS等を通じて周知・啓発をする予定です。現在、栄養士会でレシピを考えていただいております。</p> <p>ここまで説明したとおり、今年度は食環境を整えていきたいと思っております。特に減塩の取り組みは、難航しておりますので、皆様からのご意見をいただけたらと思います。</p> <p>ご意見があればよろしく願います。</p>
保健所担当部長	<p>資料4に基づき、事務局の説明が終わりました。</p> <p>国が示している自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会の報告書にあわせて、減塩の取組についてもさらに展開していく方向性を設定していますが、アプローチとして難しいと感じています。委員の皆さんから、具体的な提案について御意見をよろしく願います。</p>
委員	<p>生まれてすぐから中学生くらいまでは親が熱心にやってくれるが、高校生や大学生といった、体が一番満ち溢れて何を食べても問題が出ない時期が無関心に当たるのではないかと思います。この無関心層に対して教育として提供しなければならないと思います。B評価を今後どうしていくのか、年齢層に焦点を当てるのかなど方向性を示してほしいです。ある程度大人になってからアプローチするのは難しいのではないかと。</p> <p>また、例えば、安い塩と高い塩、食卓に置いてある塩と色々なミネラルが入っている塩、同じ塩分でも体に与える影響は同じではないのか、カリウムをとればいいのか、食べ物で塩分を多くとるのであれば出させる食べ物を一緒に摂ったほうがよいというアプローチも手だと思えます。</p>
委員	<p>インとアウトのバランスも重要だと思います。また、ナトリウムとクロールだけの塩とミネラルが含まれている塩では塩分量も異なってくるのでそういう点も意識すべきところかと思えます。</p>
委員	<p>以前、大学院でナトリウムの研究をしていたのですが、ナトリウムを排泄させるためにはナトリウムとカリウムの比率を下げましょうとすすめています。いくらカリウムをたくさん摂ったとしても、ナトリウムは極力抑えていく必要があります。</p> <p>今、論文を書いているところですが、私の結果からいうと主食・主菜・副菜の組み合わせが最も比率が少ない結果となりました。今言われていることですが、ナトリウムとカリウムの比率の観点から、主食・主菜・副菜の組み合わせが良いということです。大学生の食事をみていると、麺料理を昼食で選択する人が多い傾向がありますが、汁を残しても麺にも多くのナトリウムが含まれています。やはり日本型の定食で、汁がつくとナトリウムは増えますが、野菜を増やすと良いですよ、などといった食事のスタイルを提案できる</p>

	<p>のではないのでしょうか。12月の国際栄養学会で発表できるように頑張ります。</p>
<p>委員</p>	<p>勉強不足で申し訳ありませんが、現代になって食塩摂取量が増えてきているのでしょうか。日本人は、漬物、しょうゆ、味噌汁などで塩分を摂る人種だと思います。昔の人の塩分摂取量というのは高くなかったのでしょうか。洋食化して食塩摂取量が減ってきたのでしょうか。</p>
<p>保健所担当部長</p>	<p>食塩摂取量は年々下がってきています。それが、平均寿命が延びる一つの要因になっています。欧米化によるパスタやパンにも塩分が含まれています。</p>
<p>委員</p>	<p>食塩摂取量は年々減っていますが高止まっています。1日合計10gを推移していて、なかなかそこから下がってきません。ここから下げるのは日本人の食生活としては難しいと思われまます。しかし、下げれば高血圧や心疾患のリスクは下がりますので、何とかして下げようと国は取り組みを考え、どの自治体でもどのような取り組みで現状の摂取量から減少させるのかが課題となっており、検討しているところです。</p>
<p>委員</p>	<p>今は減塩がテーマですが、小学生の約10%に起立性調節障害がみられ、治療の一つは増塩となります。さらに水もたくさん摂取することで、血液中の水分が少なめで血圧も低いところの血圧を上げています。</p> <p>そのため、一律に減塩教育をすると、そういった方の不利益にもなります。</p> <p>しかし、子どもの時には塩分をとるよう指導し、大人になってから減塩をすすめることが必要になり、非常に難しいところです。</p> <p>実際に子どもの頃の食塩摂取量との関連はどのようになっているのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>食塩摂取量は子どもの時の食生活に関連していて、食塩摂取量の多い子どもが高齢になった時のリスクは高くなっています。</p> <p>女子大生の栄養計算をしても、すごくナトリウム摂取量が少ない子がいますが、食事量自体が少ないことが考えられます。もしかしたら食事量が不足していて、食塩摂取量が少ないのではないかと思われまます。食事の量も調査した上で評価していく必要があるのではないかと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>起立性調節障害の子どもに対しては健康になったら塩分を減らすといった指導をするしかないと思いました。</p>

保健所担当部長	<p>総論は日本人の食塩摂取量の目標値を目指し、多様性の中で、例外も考えながらメッセージ提供していくことも大切であると思いました。</p>
委員	<p>私も栄養士の資格はあって主婦として生活していますが、食事に含まれるもとの塩分はどれくらいとっているのかを知りたいと思っても、実際に摂取している量が目標とどれくらい差があるのかがわかりにくいと感じています。</p> <p>普通に生きている中で、毎日の食事でなんとなく気を付けているけれど、まだ塩分を減らし足りないのか、自分がどれくらい摂取していて、あとどれくらいで目標に達するのかピンときていない人がたくさんいると思われます。例えば血液量を調べて自分がどのくらい塩分を減らしたらいいのかがわかるなど摂取量が見える仕組みがあればよいのですが、実際はないため難しいです。</p> <p>家庭で気を付けている事として、味噌汁は一日一回にする、漬物を食べたいから他の塩分の多いおかずはやめようなど工夫をしています。</p> <p>自分は塩分を摂りすぎているのか、現状はどうなのかというのを知ることができるといいなと思います。</p>
保健所担当部長	<p>自分の状態を客観視できる仕組みやツールがあればいいなと思います。</p>
委員	<p>体重が増えてくれば体重を量ればわかりますが、塩分量はわからないため、塩分を摂りすぎるとこういった症状が出てくるというように、自覚症状があるとわかりやすいと思います。</p> <p>また、単純にカリウムが多い野菜をとるといったことは意識すればできると思います。</p>
保健所担当部長	<p>皮膚のどこかにウィンドウがあって色で識別できるような仕組みがあるとよいのですが、そういったことができない中、毎日の食事の塩分摂取量を考え、工夫していくことはとても大変なことだと思います。ある程度ターゲットをグルーピングしながら考えていけたらいいと思います。</p> <p>少し切り口を変えて、生産者の立場からの御意見を伺えたらと思います。</p>
委員	<p>食育という点においては、以前は工場見学を受け入れていましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で受け入れができない状況となっています。本業のお客様の工場見学ができないということですが、動画で工場の中を見せるなど変更し、取り組んでいます。しかし、一緒に作って食べるができない状況です。</p> <p>減塩に関して、商品開発の部分では魚肉ソーセージの販売が今年で70周年を迎え、現在は減塩タイプを発売しています。自身の特性上、塩ずりを</p>

<p>委員</p> <p>保健所担当部長</p>	<p>するためにどうしても塩分が必要になります。</p> <p>先ほど、どれだけ塩分をとっているのかわからないと意見がありましたが、いつも食べているものがあれば減塩タイプに置き換えるなどでも変わるのではないかと思います。減塩ニーズはあり、既存品に加えて販売しています。購入者の多くは高齢者でデータでも示されています。</p> <p>現状から減塩はこれから非常に注目される部分なのかなと再認識しております。</p> <p>皆様、ご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>時間が予定の16時になってまいりましたが、他にご意見はありますでしょうか。ご意見等なければ次に移ります。</p>
<p>3. その他</p>	
<p>発言者</p>	<p>内容</p>
<p>保健所担当部長</p>	<p>時間が超過してしまった部分がありますが、最後の議事として「その他」をご用意しております。折角の機会ですので、意見交換できればと思いますが、何かございますでしょうか。</p> <p>委員の皆様より連絡事項などはございますでしょうか。</p> <p>それでは、これですべての議事が終了しました。</p> <p>本日はお忙しい中、御出席いただき、ありがとうございました。</p> <p>この度は活発なご意見をたくさんいただきました。皆様にいただいた意見を本市の食育推進の参考にさせていただきますので、よろしく願いいたします。一朝一夕では解決できませんが、皆様のお知恵を拝借しながら、今後とも事業を進めて参りますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>